

心字池

「心字池」は日本庭園の一般的な要素であり、隣の南禅寺を始め京都の多くの寺院で見ることができる。池はその形にちなんでその名前が付けられており、「心」、「精神」、あるいは「核」を意味する漢字の「心」の草書体に何となく似ている。

このような形式の心字池は臨済宗の僧で、多くの寺院を創設し、南禅寺の住職を務めた夢窓疎石（1275–1351）によって広められたと思われる。心字池は、住職の住まう古方丈に近く、その意味と配置の両方で、住職が沈思黙考と反省を促すのに役立つ。